

【情報提供】 (概略)

子育て親子の居場所づくり～地域の子育て支援の様子から

発表者：公益財団法人ひろしまこども夢財団

子育て親子の居場所づくり～地域の子育て支援の様子からというテーマですが、家庭学習・生涯学習を視点に活動されている皆さまへの情報提供として、各地域で取り組まれている身近な「子育て支援センター」の「地域子育て支援拠点」としての役割りについての紹介とコロナ禍における「オンラインを活用した子育て支援の様子」について2点しぼってご紹介します。

1) 公益財団法人ひろしまこども夢財団について

公益財団法人ひろしまこども夢財団は、広島県の出資により、行政の安心感と民間の柔軟性を兼ね備えた団体として、1996年2月に設立されました。「子どもたちが健やかに育ち子育てに希望が持てる環境づくり」を目的として活動しています。取り組みの中に、人材育成と支援者ネットワークづくりがあり、行政や民間の枠をつくらない、県内各地域の子育て支援の核となる方たちの顔の見える関係づくりをすすめています。そして、その中で培った支援者や支援団体との密な関係をベースにして、協同の精神を大切に、子育て環境の充実に取り組んでいます。

2) 子育て家庭を取り巻く地域資源について

「子育て親子の居場所」としては、各地で多様な子育て親子の居場所づくりが進んでいます。その中で、皆さんにもなじみ深い「地域子育て支援センター」は国の施策「地域子育て支援拠点事業」として各市町が取り組む子育て親子の居場所としての役割をもち、子育て親子が、地域の身近な場所で気軽に集い、親子同士の交流や子育ての喜びや不安・悩みを相談でき、地域の子育て資源につながる場所として開設されています。そのため、拠点スタッフの皆さんは、親子同士の自然な交流や楽しい交流の支援を行い、親からの話に耳を傾けたり具体的な相談に応じるだけでなく、子育てに関する地域の人や場所、取り組みなどの資源を紹介する役割も担い、専門的な機関と連携しながら子育て支援に取り組まれています。この他にも、自治会や民生委員、大学生や子育て当事者の人たち、また企業等によって、公民館や空き店舗、個人宅や大学構内、公園や空き地など多様な場所で、定期的、不定期的にオープンスペースやサロンといった子育て親子が過ごせる場所が開かれたり、多世代交流広場やコミュニティスペース、こども食堂、学習支援活動といった幅広い地域活動としての居場所づくりも進んでいます。

県内の子育て中の方 1,371 人に聞いた「地域の中の居場所」についてのアンケートでは、「地域の中で落ち着いた気持ちで過ごせる場所や信頼できる人がいると感じますか」について、十分に感じる、まあまあ感じるが 70%と回答がありました。場所については、33.8%が子育て支援センター、公民館や子育てひろばなどが 23.5%と公的機関の場所が多かったのですが、「安心できる人」では、ママ友やパパ友、近所の人などの身近な地域の人が 70%近くでした。子育て親子が子育て仲間や地域との交流の中でそれぞれの居場所を見つけ、必要な時に必要な子育てサービスを受けることができるよう、公的機関と民間との連携も見直されています。

3) コロナ禍におけるオンラインを活用した取組について

新型コロナ感染拡大防止に伴う自粛要請期間の時期、子育て親子支援に携わる支援者から対面支援ができない中での子育て家庭への不安や心配の声が届きました。そして、そういった声から広島県によるオンラインを活用した家庭と支援者とをつなぐ新しいカタチの取り組みが始まり、財団はその運営サポートを担っています。このオンライン「おしゃべり広場」事業は、各市町の地域子育て支援拠点にタブレットを配布し、子育て家庭とつながりながら、当事者同士のおしゃべりの場づくりや、保健師や助産師、栄養士や保育士などの専門員による講習や相談の場を提供するというものです。地域実情を踏まえた子育て支援のカタチを進める身近な拠点による運営で安心感もあり、対面支援が可能になったときにつながるスタッフや専門員との顔みえる関係性作りも進められています。関わるスタッフの方たちは、オンラインならではの慣れない端末操作や画面越しの対応に混乱もありましたが、実践を繰り返す中で、企画や進行、メニューなど工夫を重ねられています。そういった中で、子育て支援の機関同士の情報交流や子育て親子へ連動した対応につながる動きも見られ、新しい可能性も期待しています。

4) まとめ

居場所づくりの事業としての支援の取り組みや、コロナ禍で支援拠点の場で取り組まれているオンラインを活用した様子をお話しましたが、子育て親子が、地域の中で安心安全に子育てを行うには、多様な資源による見守りや寄り添いの力が大きく、その点の力を面にしていくことがこれからの子育て支援に求められていると考えます。皆さんの力もお寄せいただきながら、今後も財団は子育ての環境づくりに取り組んでまいります。